

第10回 向日市上下水道事業懇談会 議事録

日時：平成22年1月25日(月)午前10時から午前12時まで
場所：向日市役所 大会議室(3F)
出席者：
(委員)吉川会長、井垣委員、大場委員、楠本委員、佐藤委員、永井委員、
西田委員、吉田委員
(事務局)大島上下水道部長、齋藤上下水道部参事、山根営業課長
高田上水道課長、松本浄水場長、中村浄水場主幹、山田下水道課主幹
柴崎営業課課長補佐、横山営業課係長、南口営業課係長、岸営業課主査
傍聴：0名

1、開会

2、市長挨拶

3、委嘱状交付

4、会長及び副会長の選出

5、議事

【向日市水道事業について】

事務局 (向日市水道事業についての説明)

委員 7ページの資本的支出の企業債償還金が平成18年度の289,251,153円から平成19年度の898,230,842円、平成20年度の790,887,328円と大きく増えているのは借換を行ったからなのでしょうか。

事務局 はい。19年度及び20年度に借換を行ったため、企業債償還金が例年に比べ増えております。19年度は国の制度で借換が認められたため、20年度は京都府の資金で一部借換が行えたためです。借換を行った結果、企業債償還金だけでなく収入の企業債も増えております。

委員 借換の効果額はいくぐらいあるのでしょうか。

事務局 以前は金利が7%以上のものを借りていましたが、現在はかなり金利の低いものに借換えることができました。借換を行ったのは償還期間の短いものでしたが、19年度の借換は約1億円の効果がありました。

残りの企業債についても低金利のものに借換えたいところですが、借換を行う際にはペナルティーとして多額の補償金を払わなくてはなりません。その補償金が19年度は国の制度で免除されました。20年度は京都府の未来づくり資金による低金利の借換を行ったため、補償金を支払っても効果がありました。

委員 2年前から黒字経営に転換したということですが、それは府営水道の単価の値下げが影響したのでしょうか。

事務局 確かに府営水道の受水費が約2300万円下がったことにより、収益的支出をおさえることが出来ましたが、同時に水道料金による収入が減ったため収益的収入も下がっています。

それ以外にも、浄水場の一元化や職員の削減、専任の水道事業管理者を廃止し市長が兼任する等の人件費を抑えるといった経営努力の効果が現れ始めてきたものだと考えています。

委員 貸借対照表の土地の価格は、取得したときの金額を計上しておられますが、時価でいくらくらいになっているのか算定しておられますか。

事務局 土地の再評価は今現在行っておりません。

委員 構築物の金額が約65億円とありますが、減価償却の期間が長いのか、ほとんど減っていないのではないのでしょうか。また、減価償却費が2億5千万円ほどありますが、企業債の償還や建設改良に充てられ、減価償却されても資金不足が解消されていません。非常に厳しい経営状況なのではないのでしょうか。

事務局 損益の利用資金の部分が資本的支出の穴埋めにまわってしまっています。現金も3億円程度で推移しており、かろうじて経営を行っているような状況にあります。借換を行ったり、据え置き期間を設けたりと、資金的になんとかまわせるように努力しています。浄水場及び配水管の老朽化の問題等が出てきておりますので、そのような部分の更新が必要になってきております。

委員 西向日に駐車場があると聞きましたが、その収益はいくらぐらいなのでしょう。売却を検討されたりしているのでしょうか。

事務局 駐車場については、年間200万円程度の収入があります。利用状況としてはほぼいっぱい、資産の有効利用と考えております。

土地については浄水場の用地とポンプ用地がありますが、田んぼの中に面積の小さな土地があるといった程度なので、なかなか売却が難しい状況です。現在、大山崎町で浄水場を売り出しておりますが、下に配管が多数あり、その撤去費用もかさむため、なかなか処分が難しいのが現状であります。

委員 借入金も含めた自己資本金が約3億8千万円となっておりますが、いつからこの金額なのでしょう。

事務局 いつからなのか今はわかりません。基本的には、黒字が出て減債積立金を積み立て、それを崩したときに資本金に入れるといったような一定のルールがあります。

借入資本金につきましては、公営企業会計において借入金を資本金に入れていることに対し疑問視されており、国でも今現在見直しを行っています。借入金は今後、負債になるかもしれません。

委員 上水道はすべて民営的な考え方をしなければならないのでしょうか。水は生活に必要不可欠であるため、公共性が高いように思うのですが、一般財源から投資的資金をまわしてもらえないのでしょうか。

事務局 水道事業会計については、全額独立採算ということになっており、水道料金で必要な経費をまかなうことになっております。下水道については、雨水は公費、汚水は私費となっております。

水道事業は制度発足時点から、企業会計を導入することになっており、基本的には独立採算で行うことがはっきりしております。

投資的な部分と損益的な部分がありますが、収益的収支のほうで、減価償却を行っています。資本的収支で設備投資に係る部分については、基本的に収支に関係なく、設備投資した部分を減価償却費という形で費用化していき資産の算出を行っています。そのため形式的な赤字もあります。

施設の更新については、たくさんの施設がありなかなか追いつかな

いのが現状であります。本来であれば、資本的支出や修繕費にお金をかけていきたいのが心情であります。特に資本的支出については資産が何十億とあるため、何十年かにわけて追いかけて改修していかなければなりません。他の市町村と同様、追いついていないのが現状であり、資産管理の難しいところです。

委員 特別損失が年々増えていく傾向にあります。どうしてでしょうか。

事務局 特別損失とは、不納欠損、つまり水道料金が未収のまま時効をむかえ回収できなかった料金を費用で落としたものです。景気の影響もあるかと思いますが、年々増えています。

現在、水道では5年で不納欠損の処理をしています。不納欠損の大部分は無断転出によるもので、水道は届出の時点で開栓し、届出(転出)のときに閉栓し、精算を行います。無断で他市に引っ越されると連絡が難しくなるため、滞納を少なくする必要があります。利用者の負担の公平という観点からも、悪質滞納者については停水といった方法をとっております。今年度ではすでに100件ほど停水を行いました。出来るだけ滞納者が少なくなるように引き続き努力していきます。

委員 停水するまでの過程はどのようになっているのでしょうか。

事務局 特別徴収の結果をみて停水を行っています。年3回ほど滞納者を対象とした特別徴収を行っており、反応がない世帯に対し通知を行い、その通知に対しても期間内に反応がないところに対し、日を定めて停水を行っています。

委員 2ヶ月ごとに料金を徴収しているため、1度支払を怠ると2か月分、滞納額が増えます。滞納額が増えれば増えるほど、徴収が難しくなるため、そういった観点からも早期に料金を回収する必要があると思います。

事務局 確かに2ヶ月検針ですので、督促、催告を行っている間に2～3回分の料金がたまってしまいます。すぐに停水を行う必要があると考えていますが、職員の人数不足もあり、なかなか難しいのが現状であります。今現在、委託業者を含め、滞納整理については力をいれています。また先ほど無断転出の話に戻りますが、しばらく水を使われない期間があっても、2ヶ月検針のため無断転出されても気づくのに時間がかかってしまいます。

委員 営業課が上植野浄水場に移動されたのはいつごろになるのでしょうか。

事務局 19年に営業課の一部が、20年に窓口が上植野浄水場に移動しました。

委員 以前は、市役所内に水道の窓口があったため、転出するときは市役所内で同時に手続きを行うことが出来ました。しかし、市役所と離れた場所に水道の窓口があることで、転出の際に閉栓の手続きを行わない人が増えることにならないのでしょうか。

事務局 確かに、そういったことも考えられます。市民課の窓口では、転出届を出された方に、同時に水道の閉栓手続きもしていただくようお願いしています。浄水場に移動する以前は、本庁とは別の西別館に水道の窓口がありました。さらにその前は本庁内に窓口がありましたが、その時も手続きされないで転出されるケースはありました。今現在は、開閉栓については電話で対応出来ますので、基本的に窓口にお越しいただく必要はありません。それでも手続きされないで出て行かれる方はいらっしゃいます。

委員 有効水量、有収水量、無収水量という言葉の説明をお願いします。

事務局 水道は配水管を通して水を送りますが、漏水した水、水道料金として反映した水、消防活動などに使われた水などに分類することが出来ます。

給水した水から漏水した水を除いた水量を、有効水量といいます。さらに有効水量は有収水量と無収水量に分類されます。有収水量はお金になった水量を表し、無収水量は消火活動に使われた水や、防火水槽にためた水など、料金として徴収する対象にはならないが、有効に使われた水量を表します。

有効率及び有収率は、それぞれ有効水量及び有収水量を給水量で割った値です。この率が高ければ高いほど、漏水が少なく効果的に水を送れていることとなります。向日市では毎年漏水調査を市内全域で実施しており、有収率の向上に努めております。20年度の有収率は94.72%となっており、全国平均と比べると高い値になっています。

【向日市下水道事業について】

事務局 (向日市水道事業についての説明)

委員 下水道使用料の値上げは平成21年12月から間違いありませんか。

事務局 はい。平成21年12月検針分からの適用です。

委員 下水道使用料を値上げしたことによる平成22年度の下水道使用料の収入の見込みはいくらでしょうか。

事務局 平成21年12月検針分から適用ということで平成21年度については、3000万円程度、平成22年度はさらに6000万円程度、改定以前に比べると合計で9000万円程度の増収を考えております。

ただ、先ほど説明させて頂いたとおり水道の水量が落ち込んでいます。水道の水量と下水道の水量は連動しているため、計画より収入が下がる可能性があります。

委員 他に改善の余地はないのでしょうか。

事務局 料金算定期間を3年間で設定しましたので、算定期間が終わった時点で再度見直しをさせていただきたいと思いますが、上下水道料金というかたちで一括して料金をいただいているため、水道料金のことと同時に考える必要があります。水道料金については、府営水が大きなウエイトを占めております。平成22年度から府が経営している3つの浄水場が統合され、その際、向日市が使っている府営水道の単価を見直すという動きもあります。下水道の汚水事業だけで考えると、このような形で推移していくかと思っております。

委員 下水道普及率の市町村比較がありましたが、下水道使用料は他の市町村と比べるとどうなるのでしょうか。

事務局 下水道使用料は京都府下の中では安くなっております。平成21年度4月現在では、23市町の中で19番目と低い水準にあり、改定後でも1つあがって18番目に上がる程度です。京都府下の中でも下水道使用料だけで見ると向日市は安いです。

委員 隣接する長岡京市と比べるとどうなるのでしょうか。

事務局 月20トン使用で考えると、60円程向日市のほうが高かったのですが、今回の改定で向日市のほうが300円程高くなっております。

委員 向日市は狭い区域に人口が集まっているため、上下水道を効率的に運営出来るはずではないのでしょうか。

事務局 確かに面積が小さいので設備投資分は他の市町村に比べて安いですが、収入の面で他の市町村より厳しい状況になります。

向日市の場合、一般家庭がほとんどであるため小口の料金体系になっております。一方、長岡京市であれば、企業等大口の利用者が何件もあり、それに対応した料金体系になっています。大口になれば1トンあたりの単価が倍以上にもなるため、少ない費用で多くの収入を得ることができます。そういう点で、向日市は一人当たりの使用水量が2市1町の中で一番低く、収入の面で厳しい状況となっております。